

ラツテ (wister 系雌雄混合) に、飲料水の代りに半醗酵茶であるウーロン茶浸出液 (飲
 観音: 中国福建省産; ♀ス♀を熱湯 600 ml で 10 分間浸出したもの) を、常時飲用させ
 ることにより、その血漿総コレステロール並びにトリグリセライドの加齢による生理的
 増加を抑制するばかりでなく、コレステロール強化飼料 (3% 含) 給与に対する増加をも
 抑制する効果のあること、また、既に増加したこれら二者に対する減少作用は比較的弱い
 ことも、昨年のオーストラリア回本総会において発表した。

今回は、この結果と比較する目的で、完全醗酵茶である紅茶 (英国産)、不醗酵茶であ
 る煎茶並びに番茶 (日本産)、後醗酵茶であるプーアル茶 (中国産) について追究を試み
 た。

実験動物は前回同様 wister 系ラツテで、4 週間予備飼育を行った後、条件負荷飼育に移
 行した。飼料は基本飼料と、これにコレステロールを強化した飼料の二種を、群を分けて
 給与しながら、それぞれに、水 (水道水) 或は茶浸出液を自由摂取させながら、血漿総コ
 レステロール並びにトリグリセライドの消長に注目して行った。

その結果、紅茶給与の場合では、基本飼料並びにコレステロール飼料給与群共に、水給
 与の場合と全く同様の経過を示し、このことから、紅茶はウーロン茶にみられたような脂
 質増加を抑制する働きが全く無いことが明らかとなった。また、煎茶、番茶、プーアル茶
 に関する結果については、現在吟味中であるが、総会当日には明らかに出来るものと考え
 る。